

### 第13回県政ひざづめ談議結果概要

○実施日時：平成22年11月16日 14:30～

○開催場所：甲府市勤労者福祉センター

○対話グループ：山梨県愛育連合会

#### ○司会

若干早いわけですが、知事が到着いたしましたので、早速、県政ひざづめ談議を始めさせていただきます。

まず、はじめに横内知事からあいさつをいたします。

#### ○知事

皆さん、こんにちは。

今日は愛育連合会の皆さま方とお話をするということであり、皆さん方には、それぞれ県下各地からお集まりをいただきまして、本当にありがとうございました。

それぞれの地域におかれて愛育連合会の会長さん、あるいは愛育会の会長さんとして、母子保健、地域の皆さんの健康のために日ごろご努力をいただいていることに対しまして、心から厚く御礼を申し上げます。

この、ひざづめ談議というのは、どんなことでも日ごろ県政に関してお気付きの点だとか、ざっくばらんにお話をして、そういう中から私ども、これからの県政を進めていく上でのいろいろな課題とか、そういうことを知ることができますし、また政策に反映していきたいと、そんなことで始めているものでございますから、身構えないで、何でも結構でございますから、日ごろお考えのことをざっくばらんにお話をいただければありがたいというように思います。

皆さま方には本当に愛育連合会、愛育会といえば、本当にもう歴史と伝統がある組織でありまして、今でこそ少子化の時代で子育てに関するいろいろなボランティア団体とか、たくさんありますけれども、その原点のような組織でありまして、本当に長い間、地域の健康づくりということで一生懸命、ご活躍をいただいているわけでありまして。

今日は子育てに関することが中心になるかもしれませんが、何でも結構ですので、いろいろとお話を聞かせていただければ、ありがたいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

#### ○司会

それでは続きまして、本日同席をしております県の担当者を紹介させていただきます。

健康づくりですとか、母子保健の推進などを担当しております、大澤・健康増進課長です。

#### ○健康増進課長

大澤でございます。よろしく願いいたします。

#### ○司会

それでは早速、ひざづめ談議を始めさせていただきます。

まずは、会長さんからお願いします。

○参加者

早速に尊いお言葉をいただきまして、本当にありがとうございます。

今日はお忙しい中、知事様にはこのような機会をつくっていただきまして、本当にありがとうございます。まずお礼を申し上げたいと思います。

本日、出席している皆さん、山梨県愛育連合会の5つの保健所管内の活動をいたしております、各地域の班員でございます。よろしくお願ひいたします。

日ごろは本当に知事様に私たちの組織活動に温かいお目をかけていただいておりますが、本当にありがとうございます。

本日はそれぞれの一番身近な地域で声かけ、見守りというような愛育会の基本的な活動の中から、地域の課題や問題と申しますのは、子育て支援であるとか、それから思春期支援であるとか、年寄りの支援であるとか、3世代交流等、そういうようなものの中から、それぞれ地域に合った活動をされている皆さんの集まりですので、地域での実践活動の内容をお話ししていただき、今後ともまた知事様によりよくご理解、ご支援がいただければというような思いでいっぱいでございます。よろしくお願ひいたします。

○参加者

中北保健所管内につきまして、現在の状況を少しお話させていただきたいと思ひます。

管内におきましては、3市1町、甲府市・甲斐市・中央市・昭和町で構成されておまして、ただ今、一生懸命取り組んでおります。

昨年度、創立40周年を迎えました。皆さんにご協力をいただきまして、記念事業等を終えました。

そこで決意したことは、愛育活動の意識を高めたりとか、組織や活動の強化を図ったり、それからこの活動をどうしても次の世代に引きつないでいくという強い決意をみんなですて、一歩踏み出しているところです。

行政と連携した協働による活動、それから多くの皆さんのご支援ご協力をいただいて、現在、精力的に活動に取り組んでいます。

ですけれども、ちょっとその中でも課題等はございます。課題と申しますのは、大変地域が、甲府市もそうですけれども、高齢化になってまいりました。それから女性の社会進出等で地域の担い手が大変な状況になってまいりました。

しかし、そのようなことばかりいっていただけませんので、少しずつでもその課題に取り組む中で、方向性としては、若い世代が住む昭和町などでは、若い世代の方が班員さんになってくださったり、男性の班員さん、甲府市においては男性の会長さんも2名いるとか、先日、パネラーの中にも若い世代の方の男性がパネラーになってくださったりして、少しずつですけれども、そんなところが見えてきて、世代を超えたり、性差を超えたりして活動するようになってきたなというところが、ほんのわずかですけれども、見えてきたような気がいたしております。

そんな男性からは、やはりこの愛育会は男性が見た目でも大変大切な活動です

というような、活動をして楽しくなりましたというようなお話を聞かせていただいて、うれしくなったりしているのが、今の中北愛育連合会の現状です。

○知事

愛育連合会というのは、基本的には班員さんがおられて、その方がいくつか世帯を分担されて、そしていつも見守りをしたり声かけをしたり、特に妊婦さんとか、あるいは子育てをしている若いお母さん方をご覧になるんでしょうけれども、あとそれ以外にもお年寄りの方々とか、何か問題を抱えているの方々とか、そういう方々も一応見守りをしたりしておられるわけで、行政にいろいろな連絡をしたりしておられるわけですが、おっしゃっている意味は女性の社会進出で班員になる人が少なくなってきたと。

○参加者

そうです。役員さんが担い手として少ないのが現状になってまいりました。

○参加者

それはきっと都市の部分で・・・。

田舎ですと組単位で受け持ち世帯というような、決められているというか・・・。

○知事

組単位で、班員さんが1人とか。

○参加者

はい、そうです。

○知事

自治会の組長さん。組に組長さんなんかいて、その愛育連合会の班員さんもお一人ぐらいおられて、そして見ている。

○参加者

あその嫁さんはもう何年か経つから・・・というようなことで、順番といっちはあれですけども、担当をしてくださる。

○知事

そういう中で男性も少し班員さんになってくれるようになってきたということですね。

○参加者

はい。少し変わってきたかなというように思いますし、男性は一生懸命取り組んでくださっているというような部分があります。

○知事

通常はやっぱり何となく女性の会だというような、そういうところへ入ってくる男性というのは、相当意欲というか、熱心な方が入ってくるでしょうね。

○参加者

割り当てで回った会長さんもおられますけれども、声かけ訪問などはちょっと不都合なところがあるという話もされました。やはり妊婦さんのところに出かけるのは、自分がそういう経験がないものですので、そのへんはちょっと大変だという話を。

○知事

相談されても困りますね、確かに。

○参加者

そういうような話も聞きましたけれども・・・普通に声かけをしているという。

○知事

今、大体、中北では、班員お一人に対してどのくらい持っているような感じでしょうか。

○参加者

今、中北は6万人の班員さんがいますけれども、やはり20名ぐらいでしょうかね。

○知事

では、引き続き、具体的に班員さんが一番苦勞する点とかというようなことも含めて、お話をいただければと思いますかね。

○参加者

峡東保健所管内は、果樹地帯で1年中、忙しいところです。

笛吹市が平成16年に誕生して、そのあと平成17年に新山梨市が誕生して、そのあと17年11月に甲州市が誕生して、3つの市でやっていたんですが、甲州市が今お休みをしてしまったような状態です。

○知事

愛育会が、ですか。

○参加者

はい。

それで本当に細々と息をしているような状態ですけれども、山梨市と笛吹市、2つの市で活動を進めています。

○知事

それは何かトラブルがあったんですか。

○参加者

区長さんの奥さんたちが役員さんになってくるから、役員を嫌がるんですよ。忙しいから、出ていくのが大変だということで、それで区長さんの中にも理解してくださらない方がいるから、愛育なんて要らないんだよ、民生委員がいればいだろうということで、これを潰してしまうようなところもあるんですよ。

新しい役員さんが出てきても、区長さんの奥さんなんかが出てきても、私は孫の育てで忙しいから、そんなことをしてられないというようなことも言ったり、塩山で長年役員をやっていた方が高齢化でもってお辞めになるときに、次の役員が出てこないの、そういう形でもって、今、休会をしているので、本当に寂しいようなところがありますけれども・・・。

私たちの地域の区から補助金をいただいていますから、全体でもって活動をしているわけなんです。声かけとか見守りの中でもって、赤ちゃんが生まれたらお祝いをしてやろうとか、子どもの日にもちょっとしたお祝いをしてやろうとか、それから新しく成人になった人たちにも、メッセージを付けてお祝いをしてあげるとか、そういうお祝いをしたり、それからあと敬老の日とか、お年寄りの長寿

のお祝いとか、独居老人の慰問とかいろいろやっています。

でも、やっぱりさっきちょっと会長さんがおっしゃったように、若い人がお勤めをなさってきていますので、役員のみ手がなくなってきたのが現状です。

愛育会というのは、1つのボランティア活動で、大変だろうけれども、やっぱり健康ということを考えたり地域の見守りということを考えたりしたときに、なくしてはならないような会だということ、自分がこういう中に入って、つくづく思います。

民生委員さんは、上からの形ですとつながっていますが、愛育会はつながるところがないんですね。だから何かそこらへんの手立てを加えていただけたら、ありがたいなということ、常に思っています。

○知事

民生委員は法律に基づいて、行政と密接に伝わってやっている、必ずもうけなければならないようなものですね。愛育のこの班員さんたちとの役割分担をしながら、やっているのでしょうか。

○参加者

やっているんですけれども、地区によってまとまっているところもありますし、牧丘みたいに50周年というような愛育もあれば、私のところはぼつぼつ30年ぐらいということで、その愛育に携わる年数も違ってきているんですけれども、とにかく組織が、区長さんの奥さんが役員になるというのは、私たちのところなんですけれども。

○知事

区長さんの奥さんが、原則的には役員になるんですか。

○参加者

はい、そうです。組長さんの奥さんはもう班員になると・・・その組織の中にいますから。私たちは2年経てば交代ですから、やっていたい気持ちもあるけれども、できなくなってしまうんです。新しい方が出てくるから。

○知事

これはもうどこもあれですか。区長さんの奥さんがおやりになる。

○参加者

いいえ、いいえ。

○知事

峡東だけそうになっていると。

○参加者

峡東の特に山梨市はそういう形を取っていますけれども。

○知事

ある意味では、それはいい面もありますよね、確かに。区長さんと一緒にやられると。それから、さっき区から補助金が出るというのは、そうになっているわけですか。市の補助金が区に流れてきて・・・。

○参加者

各地区へ来て、その地区の中からの補助金でもって運営したりしている。

○知事

市から区に来る補助金、お金の一部を・・・。  
それは皆さん、大体みんなそうなんですか。

○参加者

甲斐市の場合は自治会によって補助金が違っているんです、金額が。敬老会を一手に引き受けるところは、もちろん敬老会のお金がかかるので、その地区ではたくさん出しているでしょうし、地区によってやっぱりバラバラです。

もちろん、甲斐市の連合会のほうにいただく負担金とか、またこちらから出す補助金というのは、その人数によってです。大した金額はないんですよ、地区では。

○知事

相当大きい補助金が来るところと・・・  
その自治会として、では敬老会はお任せしますと・・・ その代わり・・・。

○参加者

普通だったら大体3万円か5万円ぐらいの間で愛育活動をしていくんですけども、地区の参加、協力事業ということが結構ありまして、愛育会も地域の方たちも結構大変なようです。だから、またそれも協力によって、自治会のほうから愛育会に協力していただくという形で理解を求めています。

○知事

この民生委員さんと仕事の分担というのは、どうなっているんですか。

○参加者

笛吹市は6町あるんですけども、その中の1つ御坂町というところなんです。愛育会というのは本当に隣近所に声をかけましょう、近所の人たちに声をかけましょうと。私は愛育班員だから、声をかけても不自然じゃないよねというところから始めるんですよ。知らない人から声をかけてはいけないという時代なので、私は愛育班員ですよということで声かけを本当に隣近所の方に、両隣じゃないですけども、5軒、10軒先まで、知るようにしましょうねということで、各班員さんにその伝達をしていますけれども、そこから出た、声かけをしたところで、でもこの家は具合が悪い人がいるようだとか、ちょっと生活に困っている人がいるようだよというようなことを、民生委員さんに話をすると。そういう体制が一番いい方法だなということで、それを進めています。

○知事

民生委員はやっぱり10軒とか20軒じゃなくて、もっとたくさん持っている。

○参加者

民生委員はうちのほうでは9組まであるので、その中で2人の受け持ちでしています。

○知事

じゃあ、民生委員さんは、もっと広く持ってね。

○参加者

そうですね。だから民生委員はそんなにたくさんは見られません。本当に何百

人という。その中で小さい単位、愛育班が活動しないことには、民生委員自体も動きが・・・今は守秘義務があって教えてくれないんですよ、独り暮らしはどういう人がいるとか、家族がどうなっているかという構成が全然伝わってこないで、それを愛育班員が把握して、そして近所にもし2日ばかり見えないよという方がいるときには、民生委員さんにお話しして、その家に見に行くという。

この間2人助けました、それで。やっぱり近所の方がよく声をかけてくれるんですよ。2日、3日ちょっと寝ているようだよというようなことで連絡があって、そして見に行ったら本当に骨と皮ばかりになっているんですよ、おばあさんが。

○知事

1人の独居老人でね。

○参加者

もう1人、息子さんが身体障害者でいるんですが・・・すぐに施設のほうにいった、そのあと十日ぐらいしたらもう顔が真ん丸くなっていて、もうつやつやして、ちょっと認知症がかかっているようなので、こんないいところに入れてもらってよかったと、喜んでくれて、近所の人声かけというか、これは本当に大事だなと思って。

もう1人も、その息子さんですけれども倒れていて、朝から、いつもここを開けておきなさいって、近所の方は言っているんですって。家の中が見えるように、声かけがしやすいように開けておいてねなんていうことで、そしたら朝も声掛けで寝ていて、昼間も寝ているということで、これはちょっとおかしいというので・・・それで結局、脳に血液がたまってしまって、今病院に入っていますけれども。

だから、それを愛育は声かけをしようねということで、推進していますけれども。

○知事

大体どこのところも同じですか。

10軒とか20軒持っていて、それでその隣近所でね。隣近所ですから、あまり守秘義務とかの問題にはならないですからね。

それから、問題があれば民生委員さんと。

○参加者

虐待、子どもさんがそういうような事例も愛育班員さんらが、どうもあそこの家はというようなことで、行政であるとか民生委員さんにとというような事例もあるそうです。

○知事

大体同じようにやっておられる。

○参加者

ええ、同じです。

○知事

それは大事なことですな、だけどね。

○参加者

電気も付かないよとか、戸が閉まったままだよとかというような。愛育会のお

ばちゃんという感じでご近所の方が教えてくださるので、トントンとしてみると、やっぱりそうだねと。「聞こえる」とか言うと、かすかに聞こえてくると、「じゃあ開けて入るよ」というような、そういうような本当にご近所のお付き合いができています。民生委員さんはやはりさっきおっしゃるように、持ち数が多いものですので・・・。

甲府市なんかは、うちのところはありますけれども、お隣のところはやっぱりないとか・・・そういうところはもう愛育の人たちが定例会でそのお話をしてくださって、「ああ、よかったね」とか、「保健師さんに電話をして」とか、本当に身近で隣近所にそういうことができているんじゃないかなと。そんなようなことを思います。

○参加者

個人情報に面倒で、なかなか踏み込めないというのが実情でして、子育ての支援なんかもそうなんです。

○知事

断られれば、どうしようもなくなってしまうものね。

○参加者

そうです。それがネックになっている場合もありまして、なかなかこれ以上踏み込めないというか、立ち入れないということが、ちょっとありまして、私たちも声をかけたり、見守りというのが一番大事な愛育会ですので、何とかそのお宅に伺ってと思うこともあるんですが、子育ての場合は近所に赤ちゃんが生まれたということも、どこに生まれているのかということも分からないんですよ。それを行政のほうに聞いても、この地区では3人、新しく生まれているということは分かるんですが、どこどこでとか、そういうことはやっぱり個人情報ということで、なかなか難しいですね。今はオシメが乾してあるという時代でもないの・・・

全くそういうことが、なかなか情報として入ってきてないということも事実ありますね。

○知事

年寄りには特にそういうことがあるでしょうね。

今、都会で問題になっているのは孤独死ですよ。いわゆる独居老人、独りで住んでいるお年寄りがすごく多くなってきている。そういう人たちは、周りのお付き合いがないものだから、いつの間にやら亡くなってしまっただけね。恐ろしい話ですけども、亡くなって何カ月も経ってから発見されることがよくあるじゃないですか。全国で孤独死が3万人とも・・・。

山梨ではまだそういうことは少ないですけども、しかしこれから増えてくるかも・・・。やっぱり皆さん方が活動していて、見ていて、あのお宅は全然、最近窓が開かないとかが分かれば、そういう連絡をしていろいろできる。

では、引き続き・・・

○参加者

峡南保健所管内は、市川三郷町、富士川町、早川町、身延町、南部町の5町からなっています。5町ともに、街中と山間部に分かれていますけれども、山の中

というところが結構多いんです。そういうところで、やはり若い方たちが愛育会に入ってくれなくて、お年寄りが80歳ぐらいでも、まだ頑張ってるその班長さんとか、役員をやってくださるところもありまして、今、甲府の話を書きましたけれども、田舎でもそういうところが結構出てきています。

ずっとお話が出ていましたように、本当に愛の声かけ運動だと思っています、愛育会は。赤ちゃんが生まれる人数が少なくなっておりますから、活動もお年寄りのほうまで声をかけましょう、見守りしましょうということで、会ったときには「おばあちゃん、元気」というように、こんなふうにみんなで声かけをできる範囲であれば、お年寄りの方も1人じゃないな、みんなが見ていてくれるなという、心強く思えるでしょうから、その声かけをするのには、やはり顔見知りになって、会ったときに何かの話を・・・まず「こんにちは」からしましょうというようなことを、どこでも広くそのことを啓発しているんですが、それでどこの町も共通して一番困っていることは、やはり会長、その下の班長さんを持っていったときに、なかなかすんなり受けてくれない。はっきり言って逃げの方が多いんです。

身延地区におきましては、平成12年に婦人会が休会になりました。その婦人会と一緒に愛育会がありましたので、役員も、流れでやっておりましたので、もう婦人会が終わってしまえば関係ないという意見がたくさん出まして、でもそのときは行政のお力をいただいて、身延町役場のほうの担当課の、生涯学習課ですけども、課長もリーダーも私たち役員と一緒に歩いてくれています・・・

町から補助金をいただくこともありますので、13地区全部そろって活動ができなければ困るということで、その愛育会の役員も、公民館の役員としてどの地区も入れていただくように、区長さん、公民館長さんをお願いをして入れてもらいました。

ですから、身延地区に限りましては、順番でその地域、地域で、年の順もありますが、役員は出てきます。ですが、ほかの町につきましては、やはり班長、会長でどこも困っています。今日もこちらの副会長と2人で、このお役をいただいたから、知事さんともお会いできるということをお話しながら来たんですが、皆さんはその役を逃げます。自分が忙しいからということで・・・でも、その方たちはご自分の好きな趣味の会であれば、どこまでもいきます。

○知事

趣味の会というか、そういうものには出ますよね。

○参加者

ですから、そこでとっても矛盾を感じるんですが、女性が世の中にも出るようにと提唱されている今現在、どうして自分たちのことでは出ていくんですが、表立ったこの役はどうして嫌なのかというと、「あいさつが嫌だ」と・・・だったら、それはもう「皆さんよろしくお願いします」でいいのよと言うんですが、身構えてしまいます。ですから、もう少し皆さん気軽に私たちと一緒にやりましょうということで、やっていただきたい。常にそれを。

○知事

あいさつが嫌なんですか。

○参加者

結構いらっしゃいます。

○知事

趣味のサークルはあいさつは要らないからね。お互いに平等だから。

○参加者

自分の勉強にもすごくなりますし、と思います。

もう1つ、私3年ほど前に峡南地方にぜひ産科の設置をお願いしますということを知事さんをお願いいたしました。そのすぐあとに甲府のほうでは助産師外来が設置されましたよね。ですから本当に産科の先生を派遣していただくことは、時間もかかりますが、年月もかかりますが、私たちの田舎のほうにもできれば助産師さんを設置していただければ、若い人たちが安心して子どもを産める環境づくりになると思うんですが。

○知事

今はあれですか、峡南、身延ですと、飯富病院にはないわけですね。

○参加者

はい。

○知事

鰍沢病院にもないんですね。

○参加者

産科がないんです。

○知事

そうすると、産科はあれですか、やっぱり山梨大学医学部附属病院へ行くと・・・。

○参加者

はい、こちらのほうにやっぱり。

○知事

よく頭には入っておりますから。

そうなんですよ、分かりました。

○参加者

では私、早川町で民生委員、愛育のほうを兼ねてやらさせていただいております。

愛育に関したことをちょっと言わせていただくとしたら、皆さんのところもしていらっしゃると思いますが、独居者の訪問をしているんですね。その年によって、お届けものがちょっと違うんですが、去年まで2、3年は靴下でした。今年はどうしようということ、先日2日前に会議がありまして、では今年はティッシュなんかどうかなんて言ったんですが、でも民生委員の事務局もあその福祉センターの中にありますので、その流れで何か今年もティッシュだったというような話を聞いたから、ダブらないように、じゃあ考えましようねということなんですが。

○知事

それは年に1回、独居の方を回られて・・・。

○参加者

はい、分かれていますね。愛育会というのは、1軒1人じゃないんですよ。早川町の場合は、今現在はちょっと休まれている地区もありますけれども・・・。

○知事

やっぱり班員さんというのは、おられるでしょう。

○参加者

はい、おります。皆さんと同じようにやっぱり組がありまして、組長さんをお願いしていて、そのために勉強会もありますし、講師の先生をお迎えして勉強することもありますし、つま先草履をつくったり、いろいろ趣向を変えて、勉強会がございますけれども、それは愛育のほうなんですけれども。

○知事

大体、組には1人ずつ班員さんがいるわけですね。

○参加者

はい。その中に部落の班長さんがいらっしゃいますけれども。

○知事

早川町ではその班員さんは年に何回か集まるんですか。

○参加者

あります。2カ月に一度、役員会がございますして、それをしていますけれども・・・。それも愛育会のほうですけれども、乳児健診に立ち会ったりしています。その中で早川町も役場に中心になっていただいて、子どもも連れて行ってお母さん勉強会というようなことをしています。この間ちょっと私も行ってみたら、折り紙でいろいろつくって文化祭に出しましょうということで、何か頑張っている感じがしましたね。お子さんを遊ばせながら。時々、会場に行ってお手伝いをするというような感じです。

○知事

早川町では子育てをしているお母さん方が大体、時々集まってとか。

○参加者

そうです。そして保健師さんが中心になってね、場所を提供したり、高校生がお手伝いをしたりということで、協力してくれています。

○知事

早川町は独居のお年寄りが多いから大変ですね。だけど割と子どもさんたちがみんな出ているけれども、それを心配してよく家へ帰ったりして、親を見ているようですね。

○参加者

私の地域にもう85、86歳のお母さんがいらっしゃったんですね。でも、子どもたちが県外に行ってしまうんですね。

お母さんは、私はもうここは動かないよと。私の城だから、ここでもう終わっていいという考えだと思うんです。でも、体も弱ってきているし、病院にも行かなければならない。だから、男の子が2人、そして女の子もいるんですが、女の

子どもたまには来ますけれども、そうは来ていられないので、長男と次男が交代で病院に連れて行くんですね。私も立ち会いましたが。でも限界があるんですね。1年ぐらいそれをされていました。でも限界というものがあるから、どうしてもお母さんに移動してもらってということで、今、県外へ行かれましたね。

私もお見舞いという形でちょっとした気持ちを添えて、会おうと思って行ったんですが、拒否されたんですね。というのが、せっかくお母さんが行く気になったのに……。それで拒否されたから、では長男さんにお渡しくださいと言って、私は昔、一緒に仕事もしたこともあるし、だからぜひお母さんに花でも買ってもらうようにといて、お見舞いという形で取っていただきました、気持ち良く。

でも、お会いすることはできませんでしたが、それから2カ月ばかりしてね、家へ来てもらいましたけれども。元気だそうです。

○参加者

編集委員をさせていただいております。知事さん、『愛育だより』、これは昨年のものですが……。

愛育会に白羽の矢が当たったということで、今回はひざづめ談議の特集ページを組ませていただきますので、よろしく願いいたします。

中央市も細々やっていますけれども、環状線ができて、若い方たちが増えてきました。今はある意味、PRをしようということで、愛育会活動を……。私たち力不足なので、どうしようかと思っているときに、2年目の保健師さんが、とてもはりきってまして、私たちのほうが背中を押されまして、頑張りましょうよと……。保健師さん同士の勉強会がありますね、そこで勉強して、「中央市はこれでは駄目だと思いますので……」と、怒られました。息子と同じ年の保健師さんなんです……。でも、保健師さんが本当にいろいろなものをつくってくださいました。今はハンドベルをやってみましょうということで、養成講座をつくりまして、それにいろいろな方を呼びまして、そしてハンドベルが出来上がったら、それで慰問に行けばいいじゃないですかということで、それも若い保健師さんが提案してくださいまして、いつも会長たちが「行政と愛育会は両輪だ」という意味が、やっと今、7年目になるんですが、私も役をさせていただいて、いろいろな意味で分かってきました。中央市となってまだ4年目ですが、本当にまだ有志の活動なので、全戸加入でもないし、でも数は少ないけれども、やる気がある人がいてくれるから、とてもうれしいなと思ひまして、細々とやっていますけれども、そこで若い保健師さんが背中を押してくれて……。

○知事

それは市の保健師。

○参加者

中央市の保健師です。

○知事

中央市の保健師さんというのは何人かいらっしゃるんでしょう。

○参加者

大勢いらっしゃいます。その中で担当は田富に1人、玉穂に1人という形で。

玉穂は若い保健師さんなので、本当に一生懸命やったださっていますので、今、この場だからとお世辞を言うわけではないんですが、これが本当に本音で、逆に私たち、もっと頑張らなければいけないなど、いつも反省しています。

○知事

山梨は保健師が結構多いですよ、人口の割合からすると。

○参加者

我々の活動は本当に行政はもとより、一番私どもに身近の、保健師さんにご指導をいただいているんです。もちろん地域の健康問題は保健師さんが一番ご承知しています。

そういうようなことで、県でも育成者研修が行われていますけれども、ぜひ知事さんが言われたような行政の、特に保健師さんの、私どもにまたお力添えをいただけるように、お願いしたいと思います。

○参加者

愛育会活動は官民一体の活動ですので、人間の体に例えますと、骨格が行政です。筋肉は専門職、いわゆる保健師です。血管が私ども愛育活動の組織活動です。

○知事

保健師さんと二人三脚でやっている・・・ 大事ですね。

○参加者

だから地域活動を保健師さんが今のように後押ししてくださるところは、非常に活発に活動しているんですが、どちらでもいいじゃないというような保健師さんですと、やっぱり我々も後ずさりをしてしまうような現状も。

○知事

保健師さんは、もちろん市町村には大体いるんですが、数は大体あれですか、人口割でうまく配置されているんですかね。

○健康増進課長

市町村ですと各首長さんが・・・ 比較的、山梨県は多いんですが・・・。

○知事

人口当たりだと一番多いくらいじゃないですかね。

○参加者

保健師さんがいろいろな分野で忙しくて、それを気の毒だなと思います。私どもにはなくてはならない存在ですので、保健師さんにはぜひずっと長いご指導をいただきたいと思いますが。

○知事

中央市では、やっぱり子育てをしているお母さん方にいろいろな声かけとか。

○参加者

わくわくママクラスというものを昨年からやって、3回シリーズで勉強会をしています。愛育班員はその間、託児をさせていただいている。

○知事

お年寄りなんかもやっぱりみたりするというのもやっているわけですよ。

○参加者

あります。いきいきサロンとか、愛育会でということで、お声がかかれば、そこへ行っていろいろさせていただいています。そこにも保健師さんに来ていただいて、健康講話をしていただくような協力体制になっていますので、ありがたいと思っています。

#### ○参加者

東部の状況ですけれども、忍野とか富士河口湖、勝山、山中湖、西桂、都留、大月、上野原、小菅の8つの愛育会で連携をしております。

活動内容としては、皆さんがおっしゃられたような声かけ訪問を一緒にやっております。この中で私がちょっとお話ししたいことは、先日、活動報告会というものが上野原のもみじホールで行われました。その中の資料で今、愛育というのは、赤ちゃんのみならず、すべての住民を対象にしています。特に勝山の愛育会では、町の保健師2人の指導で認知症サポーター講座というものを、班員を相手に開いたそうです。その中でスライドを観たりとか、お話を聞く中で、「認知症の家族と暮らしているが、毎日が本当に大変。行動の原因や対応について学び、納得した」というのが1人の意見・感想、もう1つは、「身の回りで認知症の人を見かけたら、一声かけて少しでも支えになれる応援者になりたい」という、本当に素晴らしいご意見が出されたと思いました。

今、日本、山梨に限らず、小菅もそうなんですけれども、目の前に迫っている高齢化社会とか、少子化社会を迎える中で大事なことは地域で孤独な人をつくらぬコミュニティー。先ほどからそういう話がいっぱい出ておりますけれども、本当にそうだと思います。

小菅村でも、富士・東部保健所とか、あと村の保健師、保健師を今年ようやく2人採用して、不在だったんですが。その保健師とか、あと村の社会福祉協議会の中心となって、認知症について本年度内に学習することを企画しております。これを受講すると、ちょっとした資格がもらえると・・・。

そして今後、市町村でも広くこのような講習が行われて、1人でも多くの住民が認知症に対する理解とか知識を深めたりして、地域の住民は地域で守るという意識が高まるといいなと思います。

さきほど、県政出張講座のパンフレットをいただいたんですが、やっぱり若い方もお勤めされているし、住民として土曜日あたりに小菅なら小菅村内でその講座を開いていただいて、1人でも学習を受けるといいかなと思いました。

小菅村でもいろいろな、キャッチフレーズがそれぞれあるんですが、“隣近所を気にかけて、声をかけ、手を出し、ふれあいを持つ”、このことが小菅村の愛育のキャッチフレーズなんです、愛育活動というのはやっぱり今だからこそ、こんな時代だからこそ、本当に最も必要とされる活動かなと思います。

私たちの活動は今いろいろな方のお話がありましたけれども、決してそれぞれ、どこが良くて、どこが悪いとか、競うものではないと思うんですね。ですから地域に即した愛育活動ができればいいなと・・・ これからも私たちは地域にいる人たちとかかわりを持っていきたいなと思います。

1つ付け足しですけれども、ほかはどうか分かりませんが、小菅村の場合は愛

育会というのは、日赤の奉仕団に顔を出したりとか、交通安全母の会とかにも。小菅の場合は交通安全母の会は別ですけども、大月などは食生活改善推進員のメンバーであったりとか、幾つもの愛育会の組織が、幾つもの柱を背負って活動しているということで、本当に皆さん頑張っていらっしゃるなと思いますので、いろいろな意味で細かい行政のご指導なり、ご配慮をいただけるといいかなと思います。

#### ○参加者

甲府市里垣地区の愛育活動は甲府市で一番早くて、3年前に40周年ですか、こういう冊子、今までの活動を綴っていただいて、愛育思想の啓発ができていて、もう基盤があるので、非常にやりやすく、地域の中で組織化されていて、自主連合会からということで、13団体があって、さっきもおっしゃったように民生委員も愛育会も社協のとか、みんな本当に共同で地域の中の健康の状況に、その中で愛育班員、地域の健康問題も愛育会だよというように、もう本当に頼られたり信頼されたり依頼されたりで、活動がされていまして、非常に役員のほうも順調に会長を経験した人は顧問に残って、ずっと2年交代で組長さんの奥さんが配置されて、近所の人に責任を持って声かけを今まではしています。ですから成果ももちろんありまして、救急隊員がきたときに、すぐにかかりつけのお医者さんが分かったので、すごく対応が早くて、1人暮らしの人にもすぐ娘さんに連絡ができたとか、そういうきめ細かいところで強く行っていて、さっきの地域に保健師さんがかかわるといっても、保健師は必ずそういう私たちの活動のときは、甲府市は来てくれていますので、そうすると血压測定なんかをして、先週、高齢者にもそれをやったんですけども、そのときも血压の高い人が2人いまして、さらに血压が変動したら病院へ行ってくださいよとか、早い手当ができるとかで・・・配食サービスをしているところで、食事が玄関にそのままになっていたりとか、そういう事例が本当に身近にありまして、そしてみんなに聞いてもらいたいのので、私たちの役割はすごく地域に重要だと分かってきまして、本当に私たちは素人ですから、本当に行政のそういう保健師さんが頼りなので、こんなときだからこそ、もっともっと保健師さんに来ていただいて、住民の健康を守ってもらいたい。

検診なんかの受診率もその時期になると、「検診にみんな行くんだよ」というようなことで、そういう声かけもしますので、地域で受診率がよくなっているとか、そういうことで愛育会活動は地域の健康問題と・・・。総会とかするときには各種の連合会長とか、地元の地域管理委員とか、全部が来てくれます。そして評価したださったり、こういうところをもう少しこうしてほしいとか指摘して下さったり、励ましもしてくれるので、新しくなった役員さんもやりがいを感じるんですね。

今回も新しくなった方に、6カ月過ぎた役員さんが今どんな思いでいるか、ちょっと1人にあたらしたら書いてくれまして、「43年、休みなく続いている愛育会というのは、相当に大切なものが地域にあるから、だから続いているんだ。探求心がわきました」なんて書いてあるんです。

○知事

非常にしっかりしていますね。

甲府の場合では、里垣地区だけではなく、もうどこもみんな大体そんな感じですか。地区は、甲府は30ぐらいありましたか。

○参加者

23地区ありますけれども。

○知事

大体同じ。

○参加者

大体同じとは明言はできませんけれども、この地区は本当にトップクラス、モデル地区というか。

○参加者

ここは、すばらしい顧問さんがいて築いてくれた伝統の地区なんです。

○参加者

6カ月の班員さんがこれだけ理解するというのは、相当、大事な活動だと思います。

○知事

やっぱりリーダーにしっかりした人がおられると、またそれはちゃんときちっと動くんですね。

○参加者

『愛育だより』も出しまして、今年の暑いときには熱中症についてとか、保健師さんが来てミニ講座をしてくれるんです。そしてインフルエンザの時期になると、去年は新型のことがあって、手洗いとかうがいをしたけれども、今年はやってないでしょう、とか、ワクチンもみんな進んで取りっこみたいなことを、今年はしないでしょう、とか、そういう身近に保健師さんが来て、もうこういう本当に付き合わせて話をしてくれるので、ですから愛育会と行政は本当にそういう関係であるように、継続できるようにご支援お願いしたいと思います。

○参加者

今回の原稿にも里垣地区がモデルで。検診を進めるときも、税金が戻って来たようなものだから、検診を受けろと言って・・・。

○参加者

そういうお話を理事会等でもモデルになったり、新しい、まだできたばかりのところもありますので、こういうお話をさせていただいて情報交換をして、感化されたりして、自分の地域へ持って帰って、里垣はこうだと、私たちも頑張るじゃんというような、そういうことをしてしまして、大変心強い地域です。

○参加者

甲府市の委託事業の子育て支援というものをやっているんですが、地域の若いお母さん方が月に1回ですけれども、未満児の子どもたちを連れてやってきます。そのときは行政から保健師もお見えになっていますので、体重・身長測定はもとより、育児の悩み相談に乗ってくださいます。

そんな折に、私たち班員は赤ちゃんの子守りをしていますと、ママたちはだんらんしていますよね。帰るときには、こんな楽しいことは1度ではなく、月に3、4回やってほしいですと要望されるんですが、これもいろいろ課題がありまして、3、4回もできないですが、お母さんたちがこんなに喜んでくれて、班員がまた喜んでお子守りをしてくれる、こんな活動が長く続いたらいいかな、なんていうことを常々思っている今日このごろでございます。

○知事

大体どのくらいの方が参加しますか。

○参加者

15、16人、月に。

○知事

毎月やっているんですね。

○参加者

毎月やっています。それをもっとやってほしいそうです。

○知事

随分集まっていますものね。

○参加者

すごいですね。

○知事

大体、こういうところにも出てこない人がいるでしょう、中には。

○参加者

班員さんがアンテナを高くしておいて、赤ちゃんが生まれたよといえば、アルバムを持ってお祝いにまず駆け付けますね。

大体、外に出られるようになれば、こういうところで見ているから、出ていっしょいということ、出てくるようになると思います。

○知事

こういう子育てをしているお母さん方と話をしていると思いますのは、いろいろなそういう愛育会がありますし、いろいろな子育てサークルみたいなものがたくさんありますから、積極的な人はそういうところへ出ていくんですね、どんどんね。そして、いろいろな育児の情報交換をしたり何なりして、随分いろいろなことを知っていていいんですが、ただ引っ込み思案の人がいて、何度言っても出てこないんですね。そういう人たちが、孤独で子育てしているものだから、ついついじめとか虐待とか、そういうことが起るんですね・・・。

では、行っては引っ張り出して・・・。

○参加者

というのは、地区の組織活動だからできるんです。よく子育て支援事業でも大きなイベントも、これは良し悪し、うんぬんではないんですが、やはりこういう小さな地区で、地域でその子育て支援事業活動ということがされるということが、だから出てこられないお母さんを、そういうような方にも声かけをしていただけるという面で、非常にいい有効なものだと思いますね。

○参加者

ちょうど1カ月ぐらいになりますけれども、大澤・健康増進課長さんが私どもの地域の子育て支援に見えてくださいますして、大変お褒めの言葉をいただいたんですが、支援している私どもに課長さんが見に来てくれたときには・・・。

○知事

それは会長さんの地元ですか。どちらですか。

○参加者

穴切地区でございます。すぐ近くでして、たまたま課長さんのほうからお声がかかりまして、では受け入れをさせていただきますということで、見に来てくださいますして、そのことが私ども班員にとりましては、何とも言えないうれしさで、ではもっと頑張ろうとか、そういうようなことがありましたので、課長さんにはお忙しい中を本当にありがとうございました。うれしかったです。

○知事

しかし聞いてみると、甲府市はなかなか全体的にしっかりしている。それぞれ、伊勢にしても穴切にしても里垣にしても、昔からのコミュニティーというものはしっかりありますよね。周りはどうでしょうか。アパートなんかすごく多い人口が増えているようなところというのは。

○参加者

おかげさまでそういうところも委託事業は参加者も減ることもなく、今は参加者が増える状態。サークルと、それから介護支援のためのふれあいクラブも委託事業でいただいていますけれども、減るということは全くなくて、それはすべて愛育会の方々、地域の方々の企画でさせていただきますけれども、負担はたくさんありますけれども、全地区にほとんどございます、23地区に。

○参加者

甲斐市は、合併して6年が経過します。双葉と竜王、それから敷島の3町なんですけど、双葉も竜王も愛育会の歴史はすごく長くて、昭和33年からの歴史があるんですけど、最初は方向性がなかなか3町決まらなくて大変でしたが、活動がだんだん広がって、高齢者の支援とそれから子育て支援を中心にしているんですけど、どちらかというと、やっぱり軸は子育て支援に今なっていますね。

それでちょっと活動の内容を話させていただきますと、やっぱりお母さんたちが安心して子育てできたり、子育てで喜びを感じてもらいたいとか、またコミュニケーション不足だったり、核家族という原因がありますよね。それでコミュニケーション不足だったりするので、仲間づくりをしてもらおうという、場の提供ということを考えていますして、それで乳児健診のときに、事故防止、未然に事故を防ごうということで4カ月児の乳児健診のときに、地域の役員さんたちがパネルやチラシ、グッズなどを配って説明をしています。

そして、またタッチケアといいまして、ベビーマッサージの一つなんですけど、親子、大体25組ぐらいが限度なんです。それを3支部合同でしているものから、結構それがだんだん好評で、25組以上になると断らなければならないということがあって、ちょっとそこらへんも考えていかなければいけないと思

うんですが、そのときにお母さんと赤ちゃんが向き合っ、助産師さんが来てくださるんですが、ベビーマッサージをしながら赤ちゃんの肌に触れて、命の大切さとか、またこの絆づくり、その中でまた仲間づくりをしていこうというような活動もしています。

そして、わんぱく広場というものがあまして、その中で親子が本当に1日楽しく遊べるよという企画があまして、ちょっとしたミニ運動会なんかあまして、結構役員さんたちも楽しんで一緒にやるんですが、そんなところを通して、お母さんたちが本当に子どもと一緒に触れ合える、そういう場所をつくっていきたいという気持ちが強いために、今、お母さんたち、とても忙しいですね、働いていますので、できるだけそういう場所にみんなを連れ出してあげてよいうようなことやっているんですが、年齢が進むにつれて、いろいろ不安とか悩みも多くなるので、それに合わせた子育ての講演会なんかもしています。

その子育ての講演会をした中で保健所長さんからの話を聞いたときに、甲斐市の医療マップがほしいという意見が出まして、お母さん方から。それで甲斐市では医療マップ、それから救急のときはどこに電話したらいいとかよいうようなマップづくりをしました。

それがとっても好評で、家にちょっと置いておくと、すぐそれを見て連絡がくから、とっても良かったなんていうことで・・・。また高齢者支援の中では高齢者の疑似体験よいうものをしました。それでみんなが高齢になると、身体的・心理的にどんな負担があるのかなよいうことを勉強しあまして、それを地域のお年寄りの声かけに役立てていこうよいうことなんです、中にはお母さんが私たちも高齢者なんだけれども、とにかく私たちは高齢でも、高齢者を見る側に立てるよように、日ごろから健康づくりをしておかなければいけないね、なんていう意見が出まして、健康よいうものは大事ですねと、愛育会は地域の健康づくりよいうことで、私たちも地域それぞれに、3支部合同でやるものと、それから支部ごとにやる行事があるんですね。地域の状況にあわせた活動をしているんですが、そのときに女性の健康だったり、子宮がん・乳がんのこととか、よいうよいうな先生を呼んでお話を伺うとか、よいう健康管理よいうか、地域の健康についての研修会を開催しているところもあつたりするんですが、うちで今、一番課題になっているよいうのが、当初、組織形態が違ふ中から始まていまして、そこだけが6年経つんですが、解決されていないよいうことと、双葉は全戸加入なんですね。敷島はボランティア活動。竜王はやっぱり結構多かつたんですが、加入地区がだんだん少なくなつてしまつて、未加入地域をいかにまた加入してもらよいうにするかよいう働き掛けをしなければならないよいうところが、すごく大きな課題になっています。

それでも、私たちもこうやって、継続は力なりよいますけれども、ずっと継続をしてきて感じたことは、当初、お母さんたちの集まりが少なかつたのが、だんだん何か待っていてくれて、よいう研修会であつたり、イベントなんかに積極的に参加してくださるお母さんたちがとっても増えてきたよいうことは、私たちにとつてもすごくうれしいことなんですね。

それで私たちもできるだけ愛育会のPRをしなければということで、先日、チラシをつくりました。どんなイベントのところに行っても、お母さんたちがすぐ目に付くような、簡単なチラシをつくりまして、そしてそれを配るようとか、しているんですが、本当に小さな、大した働きというか、活動じゃないかも分からないんですが、みんな地域が、みんな同じ気持ちになれば、だんだん広がっていくということを感じていまして、とにかく活動がだんだん広がりつつあるなということを感じていますので、加入地域を減らさないようにしていかなければいけないなと思っております。

また行政の、ぜひ知事さんの協力を、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ○参加者

先ほど地域のことしかお話ししてなかったもので、笛吹市としてちょっといろいろ課題なんかもちょっとあるので、この機会に知事さんにお話を聞いていただきたいんですが、笛吹市は6町で構成されていますけれども、班員数が1万4,290人ぐらいです。その中で石和町は愛育には加入してないんですね。

あとの6町はそれぞれ子どもフェスタなどいろいろな事業をしています。その中でも御坂町は今、パパ・ママスクールといって、本物の赤ちゃんと同じ重さの人形を使って、今度出産されるお父さん、お母さんたちの手助けをしようということで、オムツの換え方とかお風呂の入れ方なんかを勉強していただいています。

それがとても、いい事業で、市のほうでも取り組んで、年に3回ほど実施するようになりました。あと八代町の地区というのが、これがもう本当に30年続いているという、「お母さんへの手紙」ですね。『母乳体験記』という、ちょっとこれを知事さんに本当に見ていただいて、この地区が30年と続いているということで、本当に誇れる活動ではないかなと思うんですが、そういうようにとても活動しているところと、それとあと消滅しつつあるところがあるんですね。

お願ひというのは、民生委員とか食生活改善委員さんと同じように、愛育会も各地域から選出というか、出してもらえるように、全体が愛育会であるというように、何とかしていただきたいなと思うんですね。ない地区とある地区があるんですよ。

こんなに愛育というのは大事な活動であるにもかかわらず、今の若い人たち、若くない人たちもそうですが、みんな働いていて、その会議に出るのが嫌だとか、そんなことで、じゃあ地域のことはするので、愛育はもうしないからということで休会になってしまうところがいっぱいあるんですね。そんなことで、もう残念で仕方がないんですが、そのところを県のほうで、もうちょっと、根っこの部分を見ていただきたい。甲府市とか活動しているいいところも、いっぱいあるんですが、笛吹もこうして八代にしる、ほかの地区もいっぱいいいことをしています。

けども、抜ける地区もあるんです。だから御坂の地区でも各地区がありますよね。29地区あるんですが、その中で今現在、活動しているのは4地区なんですよね。というのは、それだけの活動の中に入ると、もう役員をするのは当たり前になってしまっているんで、皆さん抜けてしまうんですよ。区長さんたちは皆

さん、愛育はぜひ、してくれと言うんですが、女性が働いているので、そういうところには出られない。そういう会はしなくていいというように、女性のほうからそんな話が出てしまって、だから食生活改善推進員さんにしろ、民生委員にしろ、やっぱり委託がありますよね。だから県のほうでも、愛育活動を何とか維持させるのに、委託のような形でやっていただければ、本当にありがたく地域の活動をできる。

○知事

委託は少しやっているんじゃないですか。

○健康増進課長

ええ、そうですね。研修ですとか、お願いしてあります。

○知事

年間100万円とか200万円ぐらい。

○健康増進課長

もうちょっと低いですかね。

○知事

確かにそのなくなってくるのところとか、ないところとか、さっき甲州市でもなくなったと。そういうところもあるんですね。

やっぱり峡南でもなくなったというところはあるんですか。

○参加者

あります。地域的にすっぱり。

会長とか知らないうちに下のほうでアンケートを回して、この地区はできないことになったから、やめていくと・・・。

○参加者

ちょっとPRをさせてください。

11月23日ですが、補助金をいただきまして、子どもも大人も楽しんでいただけるようにということで、身延町のクラフトパークで子育て支援事業というものを皆さんのご支援をいただきまして、行うことになっております。

県のほうから職員二人がお見えになってくださることになっております。内容的にはゲームをしたり、ウォーキングをしたり、パパと体操、それから昔ながらの伝承遊び、それから手形取り、あとゲーム等終わったあと食生活改善推進員の方たちが、大変おいしい骨太すいとんというものを作ってくださいますが、みんなそれをいただいて、終わるんですが、中にはコーラスの歌が入ったりとか、楽しいことが盛りだくさんで行われますので・・・。

みんなはりきっておりますので。

○参加者

これも山梨県の愛育会に非常に評価を国のほうから出されまして、5カ所ぐらい、甲府で2回、それから富士・東部であるとか、峡北でも1回やりましたかね、今度は身延でやっていただけるようになったので。

○参加者

地域の中で子どもさんがゲームをしたり、家の中に閉じこもって遊ぶ子どもた

ちが多くなってきているので、外遊びの楽しさを知ってもらうきっかけづくりですね、それをしたいということで、先日たまたま県のほうの研修会がありました。そして埼玉大の教授の講演を聞いたんですか、夜遅くまで起きていて眠れない。眠れない子どもさんは、とにかく昼間、外で遊ばせることで、メラトニンをつくれば、みんな眠れると。そういうようなお話と、私たちがやりたいことがちょうど一緒でしたので・・・。

○知事

クラフトパークなんかは最適ですよ。

会長さんの富士・東部のほうはどうなんですか。今、小菅の方がいらっしゃいましたけれども。

○参加者

それを富士・東部でもやりました。

○知事

西桂はどうなんですか。やっぱり会長さんの地元だから、相当しっかりやっているとと思いますけど・・・。

○参加者

県のほうから、さっきもどこかでちょっと出ました、いきいき交流会というのに、先だってもそれに子どもさんを入れたり中学生を入れたり、ということで、愛育班員さんが、それを受けてくれてまして、子どもさんとお年寄りのというようなことを、月に1回、定例的にやっております、非常に好評で・・・。

だから少しずつ子どもを本当にたくさん入れられるように、やっていきたいと思っております。あとは皆さんと同じように、子育て事業は町で本当に・・・。また保健師さんが実に、私のところも保健師に育てていただいたんですが、やっぱりその行政の保健師さんの力というのは・・・ぜひ、また知事さんも・・・。

○知事

やっぱり本当に保健師さんが山梨に大勢いるというのは、これは素晴らしいことだと、健康寿命が日本一だなんて言うけれど、やっぱりこれは保健師さんがいるから、やっぱり健康予防とか介護予防とか、そういうことがしっかりしているところもあるんですよ。

○参加者

保健師さんも非常に優秀な方で、本当にご指導いただいて、先ほどの子育て支援事業も、その保健師さんがいてくれたから、ここまで来られたということがありますので。

○知事

全国愛育活動というものがありますけれども、どうなんですか。やっぱり山梨は割と活発にやっているんですか。

○参加者

山梨の評価は高いほうでして、先ほど男性班員さんもなんていうことが出ましたけれども、大分県にいたっては、男性の班長さんが研修に出てこられるんです。それは私も驚いたんですが・・・やはりだから男性の班員さんも、役員問題でい

ろいろ山梨県にもあるようですが、これではもったいないと、では私がやりましようと・・・自治会長さん自らが出られたと、私が健康問題をやりましよう、担当しましようというような男性の方が出られて、班長も一緒に研修して、本当に驚きますけれども・・・

とにかく、この組織の活動を山梨県はもう全国でも、誇れるなというような思いをしております。

○知事

大したものだと思いますね。

しかし、いろいろお話を伺って、愛育活動というものは改めてこういうものだろうと思っていたことと、かなり違うところがありまして、立派な活動だと思いますね。

やっぱり声かけ、見守りがまず原点だというのは、本当にこれは大事でね、それぞれ班員さんがおられて、何軒か持って。

今、ちょっと言っていました、参加戸数、全員参加じゃないところは、世帯で入ってもらうんですか。入会世帯みたいな・・・

○参加者

会員は10何万といるんですが。

○知事

会員さんが対象になる、サービスの。

○参加者

そうです。

○知事

じゃあ見守りとか、そういうことをやる時も会員さんが対象になる。

○参加者

いいえ、班員が・・・ここに出られておられる方が皆さん班員ですけれども、そのうちに分班長さんとか、班長さんとかがいられまして。

○知事

班員さんの下に会員がいるんですか。会員はやっぱり参加してもらおう。

○参加者

はい、そうです。

○知事

その会員がなかなか入らないと。

○参加者

うちのところは本当に全世界帯に。

○知事

加入したって別にお金を払えとかとないんでしょう。

○参加者

会費を払っているところがあるんです。双葉地区は会費を取っています。それで敷島あたりは会費を取ってないです。そういう違いもあったりして、今ちょっと大変なんです、統一するのに・・・

○参加者

小菅村はこういう状況です。各婦人会は女性の会になって、それと愛育会の抱き合わせで活動しています。ですから婦人会イコール愛育会で、その人たちは名簿登録されると会費をいただきます。年間1千円。あとは村で3万5千円。あとは自分たちでと。

○知事

ではほとんど全戸、1千円いただくようなことになる。

○参加者

そうではなくて、やっぱりいろいろな状況があって、入らない方もいらっしゃるし、小さな村でも課題はありますね。

婦人会の会員の人たちが本当にフルに頑張っているという状況ですね。でも面倒というか、見守りするのは全村民ということで。

○知事

本当に大事な活動だと思いますね。

子育てが大事、少子化社会で子育てが大事になればなるほど大事だし、一方では高齢化で独り暮らしのお年寄りが増えれば増えるほど、また大事な・・・やっぱり、それぞれきめ細かく地域のそういう状況を見ていて、声かけをしたり見守りをしたりということを日常的にやるという組織は、大変大事なことですよね。

もう都会はだんだんそれが失われてきたからこそ、おかしくなっているんですよね。

○参加者

愛育会でないとできないとっております。

○司会

お話は尽きませんが、だいぶ予定時間を超えておりますので。

○知事

具体的にどういうご支援をすとか、今日はあまり話には出さなかったんですが、いずれにしても、愛育会の活動の実態というものはよく分かりましたし、保健師さんと非常に緊密な連携ということもありましたね。私どもも今、今日聞いたお話というのは、しっかりと頭に入れながら、これから皆さま方のいろいろな形でバックアップをさせていただきたいと思うわけです。

お金をドカーンとやるとか、そういう性格の活動ではないんですが・・・やっぱり、さっき課長さんが来てくれてうれしかったとか、そういうような、いつもやっぱり県が見ていてくれるんだなという、そういうことが非常に大事なんでしょうね。そして何かあれば、すぐにいい講師さんを派遣したりとか、県庁の職員が行って説明したりとか、緊密に皆さんと連絡を取り、皆さんの活動がやりやすいように、バックアップをしていくことが大事だなと思いますね。

そういう心構えで、これからも愛育会活動を私どもとしても、お支えさせていただくようにしますので。

○参加者

本当に知事さん、今日はありがとうございました。

今、お聞きいただきましたように、私どもは本当に地域のおばちゃん活動ですので、県に補助をたくさんくださいなんて言いませんけれども、ぜひ行政の、今、知事さんが言われましたように、お目をかけていただきたいと。特に保健師さんとは両輪でやっていく活動ですので、そういうような道筋をぜひ知事さんをお願いしたい。

もう1点はお産が安心してできない。少子化、少子化といいましても、いろいろと問題もあると思いますけれども、とにかく安心してお産ができるというようなお医者さまを確保していただきたいなど。

○知事

その点は本当に申し訳ないことだと思って、お医者さんもおいおい充足していきますけれども、正直言って産科のお医者さんだけは増えないんですよね。山梨大学医学部附属病院でも産科のお医者さん、産科になるお医者さんというのは、依然として少ない。本当に弱ったものだなと思ってね、おっしゃるとおりだと思います。これは我々の責任ですからね。

分かりました。

○司会

では以上をもちまして、ひざづめ談議を終了させていただきます。